

【取組の概要】

雪が多い都市特性を踏まえつつ、20年後を見据えた札幌独自の都市空間コンセプト「Well-Moving City SAPPORO」をビジョンに掲げ、「春夏秋冬、地上も地下も、市民も来訪者も、いつでもどこでも、誰もが心地よく、心も一緒に動くまち、札幌」の実現に向け、産学官民の共創により、公共空間整備、賑わいづくりの取組等を進めています。



【担当者インタビュー】

札幌市まちづくり政策局政策推進担当課

阿部 勇士さん



平岸



宮の沢



真駒内



AKAPLA



新さっぽろ

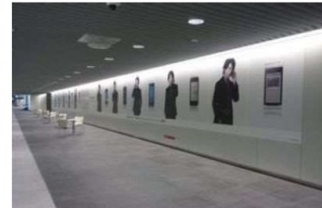


サッポロウォークャブルシンポジウム2024

官民連携で四季を通じて進める取組



チ・カ・ホ
まちづくり会社による空間づくり



Q. この取組におけるあなたの役割・担当は？

ウォークャブルシティの推進に向けた20年先の札幌市の都市空間を描く「Well-Moving City SAPPORO 2045 ビジョン」の策定について中心的役割を担いました。また各地域での取組の推進に向けて地域の方や関係機関との調整を行っています。

Q. ウォークャブルに取り組む第一歩として、何が大切ですか？

地域の方と一緒に、小さなことからでもよいので、公共的空間の活用をしてみることが第一歩になると思います。最初は批判の声もあるかもしれませんが、まずは取組んでみて、場所の可能性やニーズ、実施上の課題等を見つけることが大切です。

Q. 雪国ならではのウォークャブルの取組の工夫を教えてください

冬でも回遊できる空間形成として、地下ネットワークや空中歩廊、下水熱を活用したロードヒーティング等の整備を実施しています。さらに、冬を楽しめる工夫として、市民・企業・行政が協働し公共空間や道路空間をスノーキャンドルで彩る社会実験を行う等、雪を活用した空間形成を進めており、冬の外出促進に効果が出ています。

Q. 一過性の取組に終わらず、持続性のあるものにするためにどのような工夫を行っていますか？

まちづくり会社が主体となって「ストリートデザインスクール」を官民連携で実施しています。実際の街路にて、民間企業や学生等の様々な立場の人とデザインを体験するもので、まちづくり人材が育つよい取組だと感じています。私も一期生として活動に参加し、実際の活動の楽しみや苦労を実感し、その後の業務にも役立っています。

Q. 民間や地域のプレーヤーの発掘はどのように行っていますか？

市民公募型の社会実験を実施することで、市内各地の様々なプレーヤーの主体的な参画が生まれました。また各まちづくり団体が集まるシンポジウムも開催することで、団体同士の相乗効果が生まれています。また対面以外にもデジタルプラットフォームを活用することで、若年層をはじめとして参画者の裾野が広がりました。